

## 遺品「エジソン社製蠟管蓄音器」

11歳になると吉田千秋は兄の春太郎とともに新潟から東京の学校に転校することとなりました。この時はじめての「英語」の授業に出会います。授業についていけず困り果てましたが、それをみかねて父の吉田東伍博士が二人の英語勉強用（ヒヤリング）にと求めたものがエジソン社製の「蓄音器」でした。



明治39年（1906）購入。  
現在も、再生・録音ができます



蠟管と付属教科書